

オランダ自転車市況-2011年

平成24年2月27日

1. 全体の販売動向

RAI(オランダ車輛工業会)、BOVAG(オランダ自動車自転車商業組合)によると、2011年オランダ自転車市場の新車販売台数は、昨年は冷夏等の天候不順により販売は伸び悩み、前年比3.6%減の117万台となり、2008年から減少が続いている。一方、国内生産台数は前年と同じ120万台となり、3年間同じ数量を維持した。

新車と中古車の市場占有比率では、新車比率が前年より1ポイント減少し2011年は61%、中古車比率は増加して39%となった。消費者が新車購入を控え、中古車購入もしくは自分の自転車の修理や補修、または部品、付属品の購入にあてる傾向が、過去数年にわたり続いているとみられる。

しかしながら、1台当たり平均販売価格は上昇しており、2011年の平均販売価格は自転車販売業全体で前年比2.5%増の746ユーロ(76,092円)、自転車小売専門店では同比4.3%増の960ユーロ(97,920円)に達した。新車の販売台数が減り続ける中で、平均価格が上昇した要因は、高額な電動アシスト車自転車(EPAC)の販売が引き続き堅調であったためと思われる。

表1: 自転車販売及び生産台数 (単位:万台)

年	2007	2008	2009	2010	2011
新車販売台数	140	133.7	128.1	121.5	117.1
国内生産台数	97.2	112.9	120	120	120

表2: 新車・中古車別の市場占有率

年	2007	2008	2009	2010	2011
新車	70%	69%	63%	62%	61%
中古車	30%	31%	37%	38%	39%

表3: 平均販売価格 (単位:ユーロ)

年	2007	2008	2009	2010	2011
平均価格(全体)	603	678	726	728	746
平均価格(自転車小売専門店)	709	782	861	920	960

2. 業態別、価格帯別販売動向

業態別売上比率では、自転車小売専門店は前年より一気に4ポイントも減じて69%に落ち込み、ついに7割の大台を割り込んだ。一方で量販店、スーパーなどは31%に増加している。

しかし、いまだに消費者は品質やサービスを重視して自転車小売専門店での購入を希望する傾向は強く、特に EPAC 購入の際は、それが顕著となり、安価な輸入車よりも自国ブランド車が好まれているとみられる。

価格帯別売上比率では、昨年は盛り返した 300 ユーロ (30,600 円) 以下の低価格帯が、また一転して 22% と前年より 3 ポイント減少した。それに次ぐ 301~499 ユーロ (30,702~50,898 円) の価格帯も 2 ポイント減少し、低価格帯の比率は減少傾向にある。中間の価格帯 500~699 ユーロ (51,000~71,298 円) は昨年同様にとどまり、昨年に復調した中・高価格帯 700~899 ユーロ (71,400~91,698 円) は 1 ポイントであるが増加を続け、更に最高価格帯 900 ユーロ (91,800 円) 以上は昨年より 4 ポイントも上昇し、5 つの価格帯の中で最多のシェアを占めるまでに至った。このような全体的な販売価格帯を押し上げる動きも、やはり平均価格の高い EPAC の販売好調が要因とみられる。

表 4: 業態別売上比率

販売形態	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
自転車小売専門店	74%	74%	74%	73%	69%
量販店、スーパーなど	26%	26%	26%	27%	31%

表 5: 価格帯別売上比率

価格帯(ユーロ)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
300 以下	31%	27%	29%	25%	22%
301~499	17%	17%	18%	20%	18%
500~699	13%	15%	15%	14%	14%
700~899	25%	25%	19%	20%	21%
900 以上	14%	16%	19%	21%	25%

3. 車種別販売動向

車種別売上比率では、前年に復調した一般用自転車が、2011 年は 55% と更に 2 ポイント増加となった。ハイブリッド車、子供車及びその他は、それぞれ前年より 1 ポイント減少した。電動アシスト自転車 (EPAC) は前年より 1 ポイント増の 15% となり、着実に比率を伸ばし一般用自転車に次ぐ第 2 位の比率を占める車種に成長した。

EPAC の 2011 年販売台数は前年比 7.2% 増の 17.8 万台となり、全体の販売台数が不調を続ける中で増加を続けている。上述のように、消費者は廉価車よりも高品質の自国ブランド車を希望する傾向が依然として強く、RAI では同車種の 2011 年平均販売価格は 1,918 ユーロ (195,636 円) としている。オランダ有力 EPAC ブランドの新商品の開発意欲は旺盛であり、今回のアムステルダムでの展示会でも、バッテリー位置に工夫をこらした商品を発表する等、EPAC 販売数ではドイツに抜かれたものの、商品の企画、開発の面で同国が今後も欧州市場をけん引する可能性はある。

表 6: 車種別売上比率

車種	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
一般用自転車	60%	50%	49%	53%	55%
ハイブリッド車	10%	17%	16%	10%	9%
マウンテンバイク(MTB)	3%	-	-	-	-
子供車	17%	14%	13%	14%	13%
電動アシスト自転車	6%	10%	12%	14%	15%
その他 ※	4%	9%	10%	9%	8%

※2008よりMTB、ロードバイク及び折りたたみ車を含む

表 7: 電動アシスト自転車販売台数 (単位:万台)

年	2007	2008	2009	2010	2011
電動アシスト車販売台数	8.9	13.4	15.3	16.6	17.8

4. 今後の見通し

2012年見通しについてRAI担当者によると、現在、更なる欧州危機が危ぶまれる中でもオランダの財政状況は底堅いとされているが、今後の南欧諸国の状況によっては、当然、同国経済並びに自転車業界への影響は避けられず、その先行きの不透明さから、同国自転車市場の今後の予測は難しいと述べている。

一般自転車の新車販売の不振をEPAC販売増でカバーできるという、いままでのような楽観的な予測は立てづらいものの、その一方で同国での自転車の利用頻度はとても高く、また、自転車は便利で健康的な乗り物であることが消費者に周知されていることもあり、自転車の需要そのものが急激に落ち込むことも考えにくいとしている。

以上

統計出所: RAI、BOVAG

(国際業務部)